



まつまえ ことば
松前ノ言

1冊

縦 11.9 cm 横 9.3 cm

雄大な大地、北海道。アイヌの人たちはかつて北海道や樺太、千島を中心とした北方の生活圏を「人間の静かな大地」と呼び、豊かな自然の恵みの中で交易や狩猟、漁猟、山菜取りをしながら暮らしていた。

アイヌは文字を持たなかったので伝承などを通して民族の文化を語り伝えてきた。今も北海道とその周辺にはアイヌ語に由来する札幌、知床、稚内、ニセコなどの地名があり、山や川の名もアイヌ語からきたものが多い。

明治以前、北海道のアイヌは樺太を越え、アジア大陸や

千島列島を経てカムチャツカへ行ったり周辺の民族と交易をし、広いネットワークを持つていた。

本書はわずか一一七語を収録した小型の辞書だが、アイヌ語を記録した文献としては最古といわれている。表紙には「松前ノ言」とあり、内題は「ゑそことはの事」とある。国文学者佐佐木信綱の旧蔵書で他書の識語によれば寛永三、四年頃の書写と考えられているが、編者は不明。語彙の中には米、酒、木綿など日常必需品の他、干鮭、鷺の羽などもあり、アイヌとの交易関係者が通詞の助力を得て作



アイヌの風俗を記した「蝦夷島奇観」

成した辞書と考えられている。アイヌ語に関する記録は、自らは文字記録を残さなかったゆえ、周辺民族の文献に依らざるを得ない。江戸中期にさかのぼれるロシアの文献が知られるが、本書はさらに古く、江戸初期に書写されたと推定され、言語学者金田一京助は「世界最古の蝦夷語彙」と紹介している。

(天理図書館 加藤重光)

天理図書館のお知らせ Tel:0743-63-9200 <http://www.tcl.gr.jp/>
 平日(午前9時~午後5時半) 土・日・祝(午前9時~午後4時半)
 ただし2月16日~25日(曝書点検)、27日は休み
 (本欄にて紹介した名品の閲覧については係へお尋ねください)